

科目担当者氏名		科目担当者浦修生 (メールアドレス)
(ふりがな)	ふるかわ あきら 古川 彰	
連絡責任者氏名		竹田 政直 (仮)
(ふりがな)	みうら こうきちろう 三浦 耕吉郎	関西学院大学・社会学部
授業科目名	科目ID	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-000000-0 090720	17名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：三重県熊野市、御浜町などでの調査実習も11年目を迎え、それに関学が参加して6年目にあたる。学生総勢44名を7つの班にわけ、各班1、2名の大学院生チューターがサポートする。基本的にはプランニングから報告書の作成までほぼ学生のみで運営されている。他大学との合同実習というスタイルをとっていることで、調査の組み立てから報告書の作成まで、つねに細かいコミュニケーションが要請され、学生の調査マネジメント能力を大きく伸ばしていると実感される。同じ地域で実習が継続できるのは、現地のサポーターとともに、実習を経験したOB学生と現地サポーターとの交流などもそれをバックアップしているためである。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：地域にまなぶ：三重県熊野地域の100年と地域の未来（コミュニティと人々のつながり、地場産業とまちづくり、観光と生活保全、林業の変化と新しい動き、過疎の村で暮らす工夫など）。2009年度より2011年度まで継続のテーマ。
2. 調査の内容/概要：おもに各集落で暮らす人びとの生活誌の聞き取りから各集落の100年の暮らしの変化を明らかにし、そのなかで生まれつつある動きを捉える。それを通して過疎農山漁村（中山間地）の抱えてきた/もっている問題と問題間の連関を抽出し、それらの問題の解決に向けての方法を検討する。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：10年間、熊野市、尾鷲市、御浜町などを中心に毎年6から8集落を選定し（およそ2年程度同じ集落で継続）、区長さんなどから紹介された集落内の世代を異にする5～8人を対象にして調査をおこなっている。本年度は調査地を熊野市3集落、御浜町3集落に行政区を越えた観光班加えた班構成とした。パネル調査的要素も加味している。そのほか集落の区長や地域づくりのリーダーなどの個別調査も実施した。
4. 主な調査項目：個人のライフヒストリー、ライフイベントを中心に、集落基本データ（農業センサス集落カードほか）、集落のヒストリー（古文書、ライフヒストリー、市史、県史、その他文献）、集落機能の地理的分布、集落組織、年中行事、生活暦、農事暦など。これらも継続的に調査してきたものである。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：主にインタビュー調査と文書、統計などの収集。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：・実施時期：6月28日-29日（予備調査・各班1-2名）・9月24日-27日（本調査・全員）・11月29日-30日（補充調査・各班1-2名）、その他学生の班毎に個別調査を実施。・調査地：三重県熊野市、御浜町・調査員の数：63名程度（京都大学文学部社会学研究室との合同実習、内チューター・教員19名）
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：じっくりと長時間をかけて聞き取りをおこなうことを目指しており、全員参加および各班の代表でおこなう予備調査、本調査、補充調査のほか、各班（本年度は8班）の判断で班別調査もおこなっており、聞き取り、史料・資料調査の量・質はかなり高い。なお、プライバシーの問題などに配慮して、分析・表現・公表をおこなう必要も強調している。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：これまでに蓄積されてきた報告書の分析方法と項目とを継承しながら、100年の変化を適確に押さえるための歴史社会的研究の研究史やライフヒストリー理論などの文献研究を行う。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：日本近代における過疎中山間地の変容過程をそこに住む者の視点で再検討するとともに、本年度からは地域再生の動きを捉えることを目的としたが、実習生にとって、個々の人々、集落の生活の実践の詳細な聞き取りによってえられる知見と、おおきな近代化論の枠組みとのギャップ、さらにはそこで暮らす人びとの工夫と喜びや困難を実感できることはおおきな成果であろう。地域における、個人の人生と地域の出来事がクロスするポイントの発見、それぞれの対応の違いなどの発見が、報告書によって次年度の実習生へと伝承されつつ新たな発見へとつながり、それを報告書で伝える喜びを感じることもまた、毎年の成果である。
10. 報告書刊行の予定と概要：2010年4月刊行予定（毎年、補充調査終了後に各班があつまり、報告書作成に向けての会議を行う。1月中旬には各班から選ばれた編集委員を通して、チューターに原稿が送られ、チューターと執筆者のやりとりによって原稿が完成する）。報告書のタイトルは『地域にまなぶ—三重県熊野地域から—』（仮）。概要はコミュニティと人々のつながり、地場産業とまちづくり、観光と生活保全、林業の変化と新しい動き、過疎の村で暮らす工夫などで、それを各集落別に各班がまとめることになる。